

「新共同訳」

13 ちようどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタデイオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、14 この一切の出来事について話し合っていた。15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけが存じなかったのですか。」19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあつてから、もう今日で三日目になります。22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、23 遺体を見つげずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言っています。24 仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」25 そこでイエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自身について書かれていることを説明された。

28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなつた。32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。33 そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻つてみると、十一人とその仲間が集まって、34 本主に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

①言葉の解説

① 「二人」。 空の墓で輝く衣を着た二人の人に会った婦人たちは「十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた」(二四9)。エマオに向かう二人は、その「ほかの人」に含まれていたかもしれない。18節に二人のうちの一人の名は「クレオパ」と述べられているが、クレオパは「十一人」の中には含まれていない。

② 「その日のうちに」。 週の初めの日、婦人たちが空の墓での出来事を知らせた日に、二人は出発する。

- ③ 「六〇スタディオオン」。一スタディオオンは約一八五メートル。六〇スタディオオンは約一一キロメートルに当たる。
- ④ 「エマオ」。エルサレムから一六〇スタディオオンとする写本もあり、現在のどの村にあたるのかについては諸説がある。
- ⑤ 「そして 起こった」。15節と30節にこの表現がある。これはヘブライ語の構文をギリシア語に訳したものであり、翻訳の際には必要のない語となってしまう。新共同訳も訳出していないが、ルカはこの構文を好んで用いる。これは一種の強調構文である。15節では、復活のイエスを認めないように目を妨げられていた二人に、イエスが近づき一緒に歩くことよって変化が始まることに注目させる。30節では、イエスがパンを裂いたそのときに、彼らの目が開かれたことを強調している。
- ⑥ 「希望していた」。復活のイエスに気づかない二人は「ナザレのイエスについてのこと」を話し始める。ナザレのイエスは、神とすべての民の前で業と言葉に力ある預言者であり、イスラエルをローマから解放する者だと自分たちは希望していたが、十字架の上で死んでしまい、今日で、三日目がたとうとしている。この時制は「希望し続けていた」を意味する。望みをかけていたのに、裏切られた弟子たちの失望が暗示されている。
- ⑦ 「イスラエルを解放する」。イエスの時代のパレスチナ・ユダヤ人はローマ帝国の支配からの解放を望んでいた（ルカ一68、二38、使一6）。この期待はイザヤ41章14節、43章14節、44章22―24節、1マカバイ4章11節に基づいている。
- ⑧ 「メシアは苦しむ」。イエスの行った受難予告では、「人の子」が苦しむと書かれている（九21以下・44、一八31以下）。「メシア」が苦しむと述べられるのは、この箇所が初めて。同じ表現はルカ二四46、使三18、一七3、二六23に見られる。
- ⑨ 「ことになっていた」。この表現は、すでに起こった出来事が、救いの歴史を導く神の意思として必ず起こるべきであったという意味を表す。二人はメシアが苦しんだことは知っているが、「栄光の中へ入ることになっていた」ということを忘れていた。そこで復活のイエスは、彼らに「苦しむ、そして栄光の中へ入ることになったではないか」と問いかけ、思い起こさせようとする。イエスは彼らが「そのとおりです」と答えてくれるのを待っている。
- ⑩ 「モーセから そして すべての預言者たちから」。 「モーセと預言者」という表現は旧約聖書を指している。新約聖書の成立以前には、旧約聖書は「モーセの律法」「預言者」「諸書」と三つに分けて呼ばれていた。ここではその最初の二つが挙げられている。25節では「預言者たち」だけで旧約聖書全体を表しているが、「モーセと預言者たち」という言い回しはルカに特徴的な表現（ルカ一六31、使二六22、二八23）。
- ⑪ 「パンを取って彼は祝福した…」。これは家の主人が食卓で行う所作。五千人の人を満腹させた時（九16）、そして最後の晩餐の時（二二19）と同じように、復活のイエスは振る舞う。
- ⑫ 「（聖書を）開いた」。31節の「（目が）開かれた」と同じ語が用いられている。目が開かれることによって、初めて聖書が伝えようとする真理に触れることができる。イエスが二人の目を開き、聖書を開く。
- ⑬ 「パンを裂くこと」。ルカは初代の教会で行われていた祭儀をここに投影している。

②文章の構成

この箇所には「コンチエントリック(軸対応)」という文章構成が用いられており、23節の「彼(イエス)が生きている」という天使の言葉を中心に展開している。この言葉を軸にして前半と後半に分けることができる。対応するそれぞれのまとまりに共通する語には、傍線と二重傍線を付けている。

① 13—14節(a)と32—35節(a')この二つの段落は「エルサレム」と「互いに」によって対応している。

a メシアの死に落胆した二人は「エルサレム」から出て、エマオへと向かうが、その途中で「互いに」語り合っている。

a' 心が燃えた体験を「互いに」述べた彼らは、「エルサレム」へと戻り、仲間に体験を語る。

② 15—16節(b)と30—31節(b')この二つの段落を対応させる言葉は「彼らの目」と「認める」である。さらに、この二つの段落は「そして 起こった」という一種の強調表現によっても対応している。

b 二人は語り合い、議論しながら、エルサレムから離れて行く「認め」ないように「目」を妨げられた二人に、イエスは近づいて一緒に歩く。

b' 二人はイエスがパンを裂いたとき、「目を開かれ」、イエスを「認める」。

③ 17—18節(c)と28—29節(c')この二つの段落には同じ言葉はないが、「立ち止まる」と「留まる」という同意語が見られ、内容的にも対応しているとと言える。

c 17—18節ではイエスが話しかけて、二人が立ち止まる

c' 28—29節では、二人が願って、イエスが留まる。

④ 19—21節(d)と25—27節(d')この二つの段落は「イエスについて」と「預言者」で対応している。

d 二人は「預言者」だと期待していた「イエスについて」語り合っていた。

d' イエスは、二人が「預言者」たちの語ることを理解していないのを指摘し、「彼自身について」説き聞かせる。

⑤ 22—23節前半(e)と24節(e')この二つの段落は「墓へ」と「見つける」で対応している。

e 婦人たちは「墓へ行って」、イエスの遺体を「見つけずに」戻る。そして天使の姿を見たこと、天使が「イエスは生きている」(f)と告げたことを話す。

e' 弟子の中のある者も「墓へ出かけ」、婦人たちの言うとおりであるのを「見つける」。このあと、24節には「彼を彼らは見なかった」と続くが、これに対応する表現は22—23節前半にはない。「イエスは生きている」という天使の言葉に希望を抱いて彼らは墓へ行くが、それは「彼(イエス)に会う」ためである。しかし、イエスに会う場所は墓ではなかったのである。

③構成から読み解く

①認めることがないように(13―21節)

エマオへと歩いている二人は、これまでの出来事について「語り合って」おり、「議論する」こともしていた。彼らは自分たちが見たイエスの受難と死、そしてイエスのいなくなった空の墓が何を意味するのか分からず、意見を交わしていたのかもしれない。彼らが語りあい、議論している間に、イエスが近づいて一緒に歩くことよって、二人はこれまでの出来事の意味を知ることになっていく。二人と一緒にイエスが歩き始めても、彼らの目は「イエスを認めることがないように妨げられていた」。この受動態が「神によって妨げられていた」の意味であれば(神的受動態)、二人が復活のイエスを認めることができないのは、神が何かを意図しているからである。

②イエスは生きている(22―24節)

婦人たちが墓に行くと、イエスの「体(遺体)」を見つけることができなかったが、天使に出会い「イエスは生きている」と告げられて、戻って来る。それを聞いた弟子たちが墓に出かけると、墓の状況は婦人たちが言う通りであるのを「見つけた」が、イエスを「見なかった」。生きているイエスに出会う場所は「墓」ではなかった。「イエスは生きている」という天使の言葉を信じることができると、イエスに出会うために向かう場所は墓ではなく、別のところにある。

③パンを裂く(25―35節)

二人の話をここまで聞くと、復活のイエスは預言者の語ったすべてのことを信じられない彼らに、「ああ愚かな、そして心が鈍い」と嘆く。彼らは「メシアの苦しみ」に気を取られ、「栄光に入る」とには目が遮られている。妨げられた二人の目は、イエスが共に歩いて聖書を説明し、パンを裂くときに、「開かれた」と述べられている(31節)。これも「神によって開かれた」(神的受動態)の意味にとることも可能である。そうであれば、人間が復活のイエスを認めることができるのは、神によって目を「開かれた」ときだけである。

④生きているイエスとどこで出会うのか

① イエスはイスラエルをローマから解放する者という希望を二人は抱いていたが、もはや自分たちの希望は断たれたという思いを抱いている。そのような思いの中で、イエスの出来事を振り返るとき、彼らの目は「イエスを認めることがないように、妨げられていた」。他方、その彼らの目は、イエスがパンを裂いて手渡したとき、「開かれた」。自分たちの希望ではなく、裂かれるパンにイエスの苦しみと死を見つめるとき、人は目を開かれる。死によって終わることのない命を生きているイエスと出会うためには、神が起こした出来事に身を合わせる必要があるからである。

② 「メシアは苦しみを受けて、栄光に入る」という言葉を信じることができず二人を、イエスは「愚かで心が鈍い」と嘆く。彼らの愚かさとは、自分たちの期待や希望をイエスにかけているために、心が鈍くなり、聖書の言葉に耳を傾けることができずである。聖書は人の思いでは見ることのできない命があることを語っている。だからこそ、それを知るためには自分たちの思いから離れ、神へと思いを向け、目が「開かれる」ことが必要である。

③ イエスが聖書を「開いた(説明した)」とき、二人の心は燃え(32節)、パンを裂いて手渡したとき、彼らの目は開かれた(30―31節)。イエスに会える場所は「墓」ではないことを知った二人はエルサレムに戻り、「道」で起こったことを仲間に伝える。開かれた目で聖書を読み、裂かれたパンに十字架のイエスを思うとき、復活の命を生きるイエスに出会うことができることをこの物語は語っている。

- 13 そして 見よ 二人が 彼らのうちの その日のうちに あった 歩きながら
村の中へ 離れた 六〇スタディオ エルサレムから、 その 名は エマオ、
14 そして 彼らは 語り合っていた 互いに これら生じたことすべてについて。
15 そして 起こった、 語り合う間に 彼らが、そして 議論する(間に)
16 そして 自身が イエスが 近づいて 一緒に歩いていたら 彼らと、
17 だが彼らの目は 妨げられていた 認めることがないように 彼を。
18 だが彼は言った 彼らに対して、
「何か 話は それらの ところの あなたがたが交わす 互いに 歩きながら」
19 そして 彼らは立ち止まった ふさぎこんだ顔で。
20 だが答えて 一人が 名前は クレオパ 言った 彼に対して、
「あなたは ただ一人 滞在する エルサレムに、
21 そして 知らなかったのか 起こったことを その中で これらの日々に
そして 彼は言った 彼らに、 「どんなことか」
22 だが彼らは言った 彼に、 「ナザレのイエスについての」こと、
23 その方は あった 人 預言者で
24 力ある者 業と言葉において 神とすべての民の前で、
25 またどのように 渡した 彼を 祭司長たちが、そして 我々の指導者たちが
26 死の裁きの中へ、 そして 彼らは十字架につけた 彼を。
27 だが我々は 希望していた 次のことを、
28 彼は ある しようとする者で 解放することを イスラエルを。
29 ところが これらすべてのことに加えて 三番目の この日を 彼は過す
30 とき以来 これらが 起こった。
31 そればかりか ある婦人たちが 我々のうちの 驚かせた 我々を、
32 いつて 早朝に 墓へ、
33 そして 見つけずに 彼の体を 彼女たちは来た 言いながら
34 姿をも 天使たちの 見たことを、 その者たちは 言う
35 彼が 生きていると。
36 そして 彼は 言った 彼らに対して、
37 「ああ 愚かな、そして 鈍い 心で 信じるのに
38 すべてを、 ところの 語った 預言者たちが。
39 ではないか これらを ことになっていた 苦しむ メシアは、
40 そして 入る 彼の栄光の中へ」。
41 そして 始めて モーセから、そして すべての預言者たちから
42 彼は説明した 彼らに、 すべての聖書において 彼自身についてのことを。
43 そして 彼らは近づいた 村の中へ、ところの 彼らが行く、
44 そして 彼は 様子だった さらに遠くへ 行く。
45 そして 彼らは無理強いした 彼に 言いながら、
46 「留まってください 我々と共に、
47 というのは 夕方のもとに ある、そして 傾いた、すでに 日が」。
48 そして 彼は入った 留まるために 彼らと共に。
49 そして 起こった、食卓に着いたときに 彼が、彼らと共に、
50 取って パンを 彼は祝福した、そして 裂いて 彼は手渡していた 彼らに。
51 だが彼らの 開かれた 目は、 そして 彼らは認めた 彼を。
52 そして 彼は 見えなくなつた 彼らから。
53 そして 彼らは言った 互いに、
54 「ではないか 我々の心は 燃えて いた」「我々のうちで」
55 ときに 彼が語っていた 我々に 道で、 ときに 彼が開いた 我々に 聖書を」。
56 そして 立ち上がって、まさにその時間に 彼らは戻った エルサレムの中へ、
57 そして 彼らは見つけた 集められているのを 十一人を、 そして 彼らと一緒にの者たちを、
58 言っているのを 次のことを
59 本当に 起こされた 主は、 そして 彼は現れた シモンに。
60 そして 彼らも 報告していた 道でのことを
61 そして どのように 彼が知られたか 彼らに、 パンを裂くことの間。